第８章　　観　光　部

1. 観光部の主要事業

（1）観光宣伝広告事業

国宝松江城や堀川遊覧船などの観光施設、八重垣神社などの縁結びスポット、温泉やグルメなど松江の観光素材をさまざまな媒体やWEB・SNSなどに掲載、発信することにより、観光誘客を推進する。

（2）広域観光推進事業

尾道松江線やFDA路線などをいかし、島根県や中海・宍道湖・大山圏域観光局などの広域組織と連携し、山陽やFDA路線就航地のほか、首都圏などの大都市圏からの観光誘客を推進する。

（3）「怪談のふるさと松江」事業

小泉八雲のゆかりの地として、「怪談」をテーマにした観光プロモーションの実施、「怪談のふるさと」としての受地環境の充実などにより、観光誘客を推進する。

（4）松江水燈路事業

滞在型観光の一環として実施している「松江水燈路」を約1か月間開催する。また、松江城周辺のライトアップとあわせて松江城周辺の統一感ある光の演出により夜の魅力アップを図る。

（5）宿泊税活用事業

観光地としての認知度不足などの観光課題を解決するため、松江観光協会（DMO）と連携し、宿泊税を財源とする「マーケティング・プロモーション」、「オフシーズン（閑散期）対策」、「観光推進組織づくり」、「満足度向上・魅力づくり」の取り組みを強化し、宿泊者数と観光消費額の拡大を図る。

（6）国宝松江城観光誘客対策事業

松江城周辺の駐車場などの受け入れ環境を整備するとともに、他の国宝4城と連携して観光誘客を図る。

（7）JR との連携強化事業

京阪神 JR 主要駅において JR などとタイアップした観光 PR を行う。また、「トワイライトエクスプレス瑞風」、「WEST EXPRESS 銀河」の情報発信力を活用して、松江市の歴史と文化や観光地・特産品を PR するとともに、松江らしいおもてなしにより、リピーターにつなげる。

（8）城下町・水の都魅力発信事業

観光戦略プランに掲げるコンセプト「Authentic Japan “MATSUE” ～城下町 水の都 暮らしに息づく伝統～」に基づき、事業を展開するとともに、宿泊につながるナイトタイムエコノミーの充実を図る。

（9）小泉八雲・セツのドラマを生かして化ける松江推進事業費

連続テレビ小説「ばけばけ」の放送による盛り上がりを一過性にしないよう、プロモーションやイベント等の実施により誘客促進を図るとともに、将来にわたり「妻セツと出会い、小泉八雲が愛したまち松江」を市民が誇れるよう、機運醸成及び顕彰事業を行う。

（10）インバウンド観光推進事業

東アジア（台湾・韓国・中国）・南アジア（インド）・欧米豪（フランス・米国）を中心にプロモーションを実施するとともに、外国人観光客の受入環境整備を行う。

（11）外国青年招致事業

（一財）自治体国際化協会（CLAIR）が行う「語学指導等を行う外国青年招致事業（JET プログラム）」を利用し、国際交流員を5名配置して、国際交流の推進や海外への情報発信を図る。

（12）友好都市等交流事業

海外に5つある友好都市や小泉八雲の縁で交流のあるアイルランドと、青少年相互派遣やスポーツ交流・文化交流を通じ、国際交流の推進を図る。

（13）多文化共生推進事業

誰もが住みやすい多文化共生のまちをつくるため、「松江市多文化共生推進プラン」を策定し、外国人住民の支援や市民との交流の場の提供を行う。

2. 観光　（観光振興課・国際観光課・観光施設課）

本市は、夕景の美としじみ漁で知られる宍道湖、大山隠岐国立公園に指定される島根半島など豊かな自然を有し、また、松江城を中心とした城下町の風情、古代出雲文化発祥の地として栄えた神話や社寺・遺跡など、歴史・文化が息づくまちである。

令和2年、3年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年間入込客数、年間宿泊者数とも大きく落ち込んだが、コロナ禍前には入込客数1,000万人、宿泊者数は200万人前後で推移している山陰を代表する観光地であり、昭和26年3月に制定された松江国際文化観光都市建設法により、全国では京都、奈良と並ぶ国際文化観光都市に位置付けられている。

こうした自然や歴史・文化、市内に点在する観光施設などの観光資源を有効に活用し、入込客数や宿泊者数の増加につなげるため様々な事業を積極的に展開してきた。

平成7年には観光ループバスとして「ぐるっと松江レイクライン」の運行を開始、平成9年には堀川遊覧船「ぐるっと松江堀川めぐり」の就航、平成13年には大型観光施設「松江フォーゲルパーク」の開園が主なものであり、現在では本市の核となる観光施設に成長している。また、平成23年には貴重な歴史資料を収集・保管して後世に残す博物館として「松江歴史館」を開館した。なお、平成27年度の松江城天守の国宝指定により、松江歴史館は祈祷札などの国宝を収蔵する館になった。

平成27年7月に松江城天守が国宝に指定されたことにより、平成27年と平成28年は2年連続で入込客数が1,000万人を超えた。「国宝松江城」を中心に「茶の湯文化」や「怪談」「神話」などの観光素材をいかし、首都圏などの大都市圏のほか、「中国やまなみ街道（尾道松江線）」の全線開通による広島や四国地区、FDAが就航した仙台・静岡・名古屋をはじめ各地方への観光プロモーションを強化することで、観光誘客と宿泊客の増加対策を強化した。

また、平成30年には「不昧公200年祭」「山陰デスティネーションキャンペーン」などの大型イベント、さらに令和元年には日本三大船神事のひとつと言われる「ホーランエンヤ」が10年ぶりに執り行われた。令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、イベントの中止や観光施設の休業などがあったが、収束を見据え、観光需要の早期喚起を図るため、宿泊・観光施設の利用促進、旅行・宿泊商品の造成、観光誘客対策・SNSを活用したプロモーションに取り組んできた。

コロナ禍後は、入込客数・宿泊者数ともに緩やかな回復傾向となっている。特に、令和7年度は松江城天守国宝指定10周年や連続テレビ小説「ばけばけ」の放送開始などの好機が重なり、前年比増となった。令和8年度は、これらの効果を一過性のものとせず、小泉八雲とセツが出会ったまち松江の魅力を市内外に発信し、誘客促進に取り組んでいく。

さらに、広域観光の推進にも力を入れており、（公財）島根県観光連盟と連携し、「縁結び」や「ご縁の聖地」をテーマにした観光振興に取り組むとともに、県境を越えて連携する組織である「(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局」などと連携し、この地域全体の観光振興に向けて取り組んでいる。

インバウンド観光の推進については「国際文化観光都市」としての魅力をいかし、日本政府観光局（JNTO）や中国運輸局、島根県、中海・宍道湖・大山圏域観光局、山陰インバウンド機構・松江市インバウンド推進協議会などと連携し、外国人観光客誘致に向けた認知度向上に取り組むとともに、官民一体となり外国人観光客誘致のための観光PRや受入環境整備を行っている。また、友好都市交流や国際交流員による市民の国際理解の推進に取り組むとともに、外国人住民の支援事業に取り組んでいる。

松江市総合計画に掲げる、2030年の市民の実感「世界中から松江に人が集まる」を実現するため、令和5年2月に「MATSUE観光戦略プラン2023-2029」を策定した。本プランのコンセプトには「Authentic Japan ”MATSUE”～城下町、水の都、暮らしに息づく伝統～」を掲げており、4つの基本戦略に基づき本市の観光施策を推進していくこととしている。特に、基本戦略4「観光地松江の土台づくり」に掲げる「観光推進組織づくり」については、令和7年3月に(一社)松江観光協会が観光庁の「登録DMO」に認定された。また、「新たな観光財源の検討・導入」に関しては、中国・四国地方では初めてとなる宿泊税を令和7年12月から導入し、本プランを推進するうえで基盤となる2つの重要施策を達成することができた。

(1) 主な観光施設・資源

温　泉

鹿島多久の湯	西に朝日山、東に大平山の眺めを楽しみながら入浴できる日帰り温泉施設。泉質はナトリウム・塩化物・硫酸塩温泉で、神経痛・関節痛・動脈硬化症などに効果がある。徹底したバリアフリー構造で、檜風呂、岩風呂にはそれぞれ露天風呂、水風呂、サウナがある。また個室風呂（予約制）を完備している。
玉造温泉・玉造温泉ゆ～ゆ	奈良時代初期からあり、日本最古の温泉の歴史を持つといわれ「出雲国風土記」にも紹介されている。オオクニヌシノミコトを助けて国造りをしたスクナヒコノミコトが玉造温泉を発見したとされ、昔から「神の湯」と呼ばれ老若男女が集ったといわれている。 お湯は無色透明で神経痛、皮膚病、動脈硬化症に効果があるとされている。玉造温泉街の川辺には2ヵ所、姫神広場に1ヵ所の足湯もある。また、春はサクラの名所になっている。 温泉街の中央部には、外湯施設として「玉造温泉ゆ～ゆ」があり、大浴場、露天風呂が楽しめる。また、平成23年4月には、温泉街に「神話のオブジェ」を9体設置している。平成28年の温泉総選挙2016で「環境大臣賞」、平成29年の温泉総選挙2017で「おもてなし特別賞」を受賞。
松江しんじ湖温泉	宍道湖沿いの地下1,250mから湧きだす77℃の高温良質な温泉。温泉街は宍道湖畔に位置し、宿からは湖が一望でき、早朝には曜日により湖面に浮かぶしじみ舟を見ることもできる。また、宍道湖七珍料理も温泉と合わせて堪能できる（要予約）。温泉入り口には一畑電鉄「松江しんじ湖温泉駅」があり出雲方面へも気軽に足をのばせる。 湧き出た温泉に感謝して作られたお湯かけ地蔵は松江しんじ湖温泉街の西端にあり、泉源を見守っている。健康を祈ってお参りする人も多く、市民に親しまれている。 温泉街には松江しんじ湖温泉駅などに無料で利用できる足湯施設や、外湯施設がある。
八雲温泉・ゆうあい熊野館	熊野大社の近くにある温泉宿泊施設で「健康・保養・交流」をテーマとする。大浴場や露天風呂はもちろん身体障がい者用の機能回復浴（要予約）なども完備。結婚披露宴や研修に利用できる会場や研修施設、レストランや特産物販売コーナーもある。定期にグラウンドゴルフ大会やゲートボール大会を行っている。

海水浴場

桂島海水浴場	周囲700mの小さな島、加賀港から歩道橋で渡る。国立公園の園地として遊歩道も整備してあり、海水浴や釣りはもちろん、島を散策して日本海の景色も楽しめる。休憩所（夏季シーズンのみ開設）、トイレ等設備も整っている。
北浦海水浴場	県下でも有数の海水浴場で、海岸を二分するニュッと突き出した鎮守の森があり、その左右に遠浅の白浜の美しい海が続いている。民宿の数も多く、県内はもとより、県外からも毎年多くの人が訪れ、賑わいをみせている。
小波海水浴場	青い海、白い砂浜、しかも遠浅、磯釣りのポイントも多く、キャンプ場も併設しているのでいろいろな楽しみ方ができる。休憩所、シャワー等設備も完備（夏季シーズンのみ開設）。

キャンプ場・アウトドア施設等

忌部自然休養村	標高400m の高台に位置し炊事場やファイヤー場を完備したキャンプ場。豪農屋敷での宿泊も可能。
宍道ふるさと森林公園	宍道湖や出雲平野を一望できる眺望のよさが自慢。バーベキューなどが楽しめ、グランピング棟、ログハウスやコテージ、オートキャンプサイトなど宿泊設備も整っており、家族や仲間同士でゆっくり遊べる。

公園等

弁慶の里 道の駅　本庄	松江市の本庄地区にあり、目の前には中海が広がり、その向こうに霊峰大山を望むこともできる。周辺には弁慶島、弁慶森など弁慶ゆかりの地点が点在し、弁慶の生まれ育った地として、数々の伝説が残っている。また、周辺の観光・交通情報を提供する情報コーナーのほか、本庄地区の新鮮な野菜などを販売する特産物売場や、コンビニエンスストアもある。
松江フォーゲルパーク	日本では珍しい花と鳥の公園。花のテーマ展示温室は、世界最大級の規模で、年中満開の数千種のベゴニア、フクシア、コリウスを中心とする花の別天地が楽しめる。二つの鳥の温室をはじめ、園内各所ではたくさんの鳥を見ることができ、水鳥たちにエサをやったり、フクロウやファルコンの飛行ショーを楽しむこともできる。また、動かない鳥として有名なハシビロコウやケープペンギンも人気がある。展望台からは宍道湖が一望できる。
道の駅　秋鹿なぎさ公園	宍道湖でヨット、カヌー、ペダルボート、ローボート、セーリングカッターなどが楽しめるマリンスポーツパーク。
楽山公園	松江藩主松平家二代綱隆（1631～1675）の時代に、別荘地として茶室が設けられたことに始まる。現在は、当時の池を中心に自然林を通る散策路、東屋などが整備され、落ち着いた風情を味わえる。初夏に咲くハスの花がとてもきれい。

工芸品

袖師窯	明治10年（1877）に開かれて以来続く窯元。素朴な風合いの中に繊細さを感じさせる日常食器や花器など、出雲の民芸陶器を作っている。工房見学のほか、コーヒーカップや皿への絵付け体験もできる（要予約）。
布志名焼	1750年に開窯。特色は鉛上薬を使った黄色の櫛目紋。
めのう細工	玉湯町は三種の神器の一つ「八坂瓊（やさかに）の勾玉」の発祥の地といわれている。宍道湖に臨む花仙山からは玉の材料となる碧玉やめのうが産出し、古くから盛んに玉作りが行われてきた。特に深緑の碧玉（青めのう）は「出雲石」とも呼ばれ珍重されている。玉造温泉街の近くには出雲玉作資料館があり、「古代出雲の玉作り」や「出雲めのう細工」に関する貴重な資料を展示している。
楽山窯	松江藩主松平家三代綱近のころに開かれたと伝えられている。一時途絶えたが、不昧公が布志名窯（玉湯町）から長岡住右衛門に命じ再興し、今でも優れた茶器などを作っている。
八雲塗	優雅なうるし絵の上に天然透漆を幾度もぬり重ねて磨き上げ、年数がたてばたつほど文様が浮き出てくるのが特徴。
出雲石灯ろう	宍道町来待を中心に産出する来待石を使った石作工は松江城築城ごろから隆盛をみるようになった。灯ろうは比較的安価で苔のつきが早く、庭園になじみやすい。

史跡等

出雲国府跡	奈良・平安時代の政庁跡で、柱穴に立てられた目印の木によって当時の建造物の様子を知ることができる。また、条里制の名残をとどめる付近一帯の水田は、かつて官庁街が広がっていたところである。国・史跡。

出雲国分寺跡・天平古道	奈良時代、聖武天皇の命によって造られた国分寺の跡。現在は礎石などが置かれ、金堂・講堂・僧房などの伽藍配置が一目で分かるよう復元整備されている。また、瓦・須恵器などの出土品は、八雲立つ風土記の丘資料館に展示されている。天平古道は、奈良時代に作られた幅約6m・長さ486m の道。国分寺から南に向かって一直線にひかれていることから、国分寺への道路だったと考えられている。現在は土を盛り、農道として利用されている。国・史跡。
松江城	城下町松江のシンボルで、松江開府の祖堀尾吉晴（ほりおよしはる）公が孫の2代藩主忠晴を助け、慶長12年（1607）から足掛け5年の歳月をかけて慶長16年（1611）に築城した。別名「千鳥城」とも呼ばれる。山陰地方で唯一現存する天守は黒塗りの下見板で覆われており、その荘重かつ優美な姿は訪れる人々を魅了する。さらに、最上階から360度にわたって見渡す街並みの眺めは圧巻。園内は桜や椿・ツツジの名所で、椿・桜の時期には「お城まつり」が開催され、多くの人で賑わう。国・史跡。天守は国宝。
山代二子塚・大庭鶏塚	山代二子塚は、墳丘の全長が約94m にもなる県内最大規模の前方後方墳で、日本で初めて「前方後方墳」の名称がつけられた古墳。近くにガイダンス施設「ガイダンス山代の郷（入館無料）」がある。1辺が約42m の大庭鶏塚は、2方向に突出した造りだしがあるのが特徴。いずれも、国・史跡。
出雲玉作史跡公園	玉作り工房の原状保存施設、茅葺きの復元工房などが整備された公園。全域が国・史跡。
古墳の丘古曽志公園	古曽志大谷1号墳の実物大模型（全長46m の前方後方墳）をはじめ、地球の誕生から人類の出現までが分かる「地球46億年をわたる橋」などがあり、古代史を楽しく学べる。
田和山史跡公園	田和山遺跡は、弥生時代前期から中期にかけての遺跡で、小高い丘の斜面に三重の環壕があり、その外側に集落のある極めて特異な遺跡で、祭祀の場とも城跡ともいわれる謎の多い遺跡。弥生時代の建物も復元されている。（ガイドあり） 公園の一部が国・史跡。

自然・景観

江島大橋	平成16年10月に開通した八束町江島と境港市を結ぶ橋。全長1,446m、中央径間は250m に達し、PC ラーメン橋としては東洋一。
加賀の潜戸・潜戸遊覧船	新潜戸：3つの入り口を持つ延長200m の海中洞窟。佐太大神誕生の時、母神が金の弓矢を射通してきたといわれている。国・名勝及び天然記念物。 旧潜戸：賽の河原のある洞門で、亡くなった小さな子ども達が積むという石の塔が並ぶ。 加賀港から潜戸を遊覧船で遊覧できる（3月中旬から11月末まで運行）。新潜戸は船内から眺めることができ、旧潜戸は歩いて見学できる。所要時間は1時間程度で船頭さんが詳しく説明してくれる。
宍道湖	全国で7番目に大きい宍道湖は真水と海水の混ざりあった汽水湖。特に刻々と表情を変える夕景の美しさは絶景で、水都松江の象徴になっている。夕日観賞は白潟公園から国道9号線にかけての湖岸がおすすめ。島根県立美術館から嫁島町の湖畔が「夕日スポット」として整備されている。
関の五本松公園	シーズンには5,000本のツツジが一斉に咲き、公園からは美保関漁港や大山を見渡すことができる。また民謡に謡われている「関の五本松」は有名。
大根島	ボタンの生産日本一の大根島は、4月中旬から5月上旬にかけてボタンの花が咲き誇り、全国から訪れる大勢の人々で賑わう。また、江戸時代より続く雲州人参の産地としても有名。

美保関灯台・地蔵崎	島根半島の最東端、地蔵崎にある美保関灯台は、明治31年に造られた山陰地方を代表する美しい石造りの灯台で、平成10年に「世界の歴史的灯台100選」に選ばれた。隣りの寄棟の建物は、看守の宿舎だったところで、常時4家族がここに暮らし灯台を守った。今は日本海を一望するビュッフェとなって、行きかう船や、天気の良いときには隠岐島をながめながら休憩することができる。 美保関灯台、美保関観光ビュッフェは平成19年10月に全国の現役灯台では初めて国の登録有形文化財に登録され、令和4年2月には国の重要文化財に指定された。また、灯台で使われていた巨大な初代レンズが、ビュッフェ内に展示され、市民・観光客に親しまれている。
熔岩隧道	19万年前の噴火の時に大根島と一緒にできたといわれている。島の東南端にある第一熔岩隧道(通称「幽鬼洞」)は特別天然記念物に、島の中央にある第二熔岩隧道(通称「竜渓洞」)は天然記念物に指定されている。入り口は施錠されているが、「竜渓洞」は事前申込みでガイドと一緒に入ることができる。
嫁ヶ島	今から1200万年前の火山活動でできた宍道湖に唯一浮かぶ島である。周囲240mあり、湖に落ちてなくなった若い嫁の身がらとともに浮かび上がったという伝説がある。松江城初代城主 堀尾忠晴が、宮島の厳島神社から勧請して弁財天を祀ったことから弁天島とも呼ばれる。夕日に染まる湖に浮かぶ島のシルエットの美しさは、宍道湖の夕景をよりすばらしいものにしている。

神社・仏閣

朝日山・朝日寺	奈良時代の僧、行基の創建といわれる真言宗大覚寺派の古刹。朝日山山頂付近にあり閑静な雰囲気に包まれている。江戸時代には松江藩主の祈願所として栄え、現在は出雲札所霊場として春先に巡礼の姿が多く見られる。また朝日山頂上からは、宍道湖・日本海の景色を一望できる。
石宮神社	この神社にある巨石は「出雲風土記」に記された「犬石」「猪石」であろうと推定されている。大国主命が犬を使って猪狩をしていたところ、その犬と猪が石に転じたという神話を残し「宍道」の地名の由来となっている。
圓成寺	慶長16年(1611)、松江城を築いた堀尾吉晴が、富田城下にあった寺を松江市国屋町に移し瑞応寺としたが、後に入国した京極忠高が現在の地に移し、初代城主忠晴の法号にちなみ圓成寺と定めた。堀尾氏3代の菩提寺で、堀尾忠晴(吉晴の孫)の木像や五輪塔など、堀尾氏ゆかりの遺品が残されている。華道小原流創始者・小原雲心の墓所があることでも知られている。
神魂神社	「イザナミノミコト」を主祭神とする古社で、出雲国造家と格別に関係が深い。通称「大庭の大宮さん」。本殿は、宇豆柱の壁からの張り出しが著しいなど古式を伝え、現存する大社造りの社殿のうち最も古いことから、国宝に指定されている。参道の苔むした石段が、より荘重な雰囲気を醸し出している。
熊野大社	祭神はヤマタノオロチを退治した伝説を持つスサノオノミコト。出雲大社とならぶ古社で出雲の国一の宮として崇拝されている。毎年10月15日には出雲大社の古伝新嘗祭にいる火を拝戴する鑽火祭が奉仕される。
月照寺	松江藩主松平家の菩堤寺で、初代直政(なおまさ)から九代斉貴(なりたけ)までの墓がある。墓所と廟門は当時のものがほぼ完全な姿で残っており、その閑雅さを小泉八雲も絶賛したという。唐門正面にある七代藩主治郷(不昧公)の廟門は、名工・小林如泥の作で、飾りのブドウの透かし彫りなどが見事である。境内にある大きな亀の背にのった石碑は六代藩主の寿蔵碑で、この大亀は夜ごと町へ散歩に出たという伝説がある。静寂な境内には四季折々の花が咲き、特に6月中旬からはあじさいの花が所狭しと咲き誇り、「山陰のあじさい寺」として多くの観光客が訪れる。国・史跡。初代・七代廟門は、島根県有形文化財。

佐太神社	「出雲国風土記」にも登場し、佐太御子社と記されている古社。本殿は三殿並立という珍しい大社造で、重要文化財に指定されている。祭礼は、11月20～25日に行われる神在祭（お忌さん）と9月24日の御座替神事が有名で、御座替神事の翌日に奉納される佐陀神能は、昭和51（1976）年に重要無形民俗文化財に指定され、平成23（2011）年にはユネスコ無形文化遺産に登録された。
城山稲荷神社	松江藩の基礎を築いた松平直政が勧請した神社で、名工・小林如泥作の木狐等を社蔵としている。小泉八雲は境内を囲む石の狐を大変好み、よく訪れていたという。日本三大船神事・ホーランエンヤでも有名。
白潟天満宮	菅原道真公をまつった神社で、地元では「天神さん」と呼び親しまれている。毎年7月24～25日に開催される夏まつりでは、御輿が繰り出されたり、多くの露店が立ち並ぶなどしてにぎわう。
菅原天神の里	宍道湖に流れる来待川の上流、菅原地区に鎮座する天満宮は、代々松江藩主の崇敬を受け、学問の神様として今も受験生や親たちが参詣する。学問の神様「菅原道真」の生誕地としての伝説もある。菅原梅ノ木天神大教会には、「産湯池」や「御手植鼻繰梅」など道真公ゆかりとされる遺蹟が保存されている。そば処天神館は毎週土、日と毎月25日に営業。そば粉100％のそばを提供している。
大雄寺	松江開府の際に広瀬町から移された法華宗の寺で、静寂さの中に心落ち着く風情をかもしだしている。石垣と白壁の山門をくぐると、左側に小泉八雲の「飴を買う女」の舞台となった墓地がある。この怪談は、母親が赤ん坊のために幽霊となって飴を買いに来るという物語で、母の愛の強さを訴えている。
天倫寺	天倫寺からの眺望は宍道湖十景・松江八景にあげられたほどの絶景である。鐘楼にある梵鐘は朝鮮鐘で重要文化財。
普門院 （観月庵）	松江城鎮護の寺。小豆とぎ橋で謡曲杜若（かきつばた）を謡うと恐ろしいことが起こるという伝説があり、小泉八雲も怪談として紹介している。また、八雲も手ほどきを受けた三斎流の茶室「観月庵」（市指定建造物）や、荒川亀斎の造った芭蕉像を安置する「芭蕉堂」などがあり、町なかとは思えない静寂が漂っている。
枕木山・華蔵寺	天長2年（825）智元上人の開基と伝えられている。慶長12年（1607）、堀尾吉晴が松江城を築城する際、ここが鬼門にあたることから祈願寺とし、松平直政が明暦3年（1657）に再興した。薬師堂に安置される薬師如来坐像は重要文化財。境内のお成り門・鐘楼門は市指定文化財。
玉作湯神社	玉作湯神社境内の奥には、古くから「湯山主之大神」として崇められてきた丸い自然石「願い石」があり、この石に「叶い石」と呼ばれる天然石を重ねて願うことが人気となっている。
真名井神社	茶臼山（神名樋野）の東南麓にある神社で、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）が主祭神。『出雲国風土記』にも登場する古社で静寂な空気に包まれた境内は、心を落ちつかせる。かつては真名井の滝付近にあったともいわれている。本殿は県指定建造物。
美保神社	本殿は美保造りと呼ばれ、大社造りを2棟並べた独特のもので、左殿に三穂津姫命、右殿にえびす様として知られる事代主命が祀られている。漁業、海運、商売、歌舞音曲の神として全国に事代主命を御祭神とする神社が3,385社あり、美保神社はその総本宮である。本殿は重要文化財。本殿以外の拝殿、回廊、神門などの諸建物は、大正期に伊東忠太や角南隆の指導を受けて整備された。拝殿は国の登録有形文化財。江戸時代から美保神社に奉納された846点の楽器類は、国の重要有形民俗文化財。

八重垣神社	神話「八岐大蛇（やまたのおろち）」で、大蛇を退治した素盞嗚尊（すさのおのみこと）と稲田姫命（いなたひめのみこと）が新居を構えた場所であることから、縁結びの神社として知られている。宝物殿には、2人の姿を描いた壁画があり、神社の障壁画としては日本最古のものといわれ重要文化財に指定されている。稲田姫命が自分の姿を映したといわれる「鏡の池」には、硬貨を占い用紙に浮かべて早く沈むほど早く良縁に恵まれるというご縁占いがある。
六所神社	律令時代の出雲国総社で、古くは朝廷からのお参りがあり、当時の絵図が伝わっている。出雲国の国司が出雲国内の神々を招き奉り、諸神事を執り行ってきた社である。

茶室

菅田菴	かつての松江藩家老有澤家の山荘にある茶室。不昧公の指図により建てられたもので、蒸し風呂式の御風呂屋が待合をかねているなど、形式にこだわらない試みが随所に見られる。林を抜けて続く菅田菴への小道も風情がある。庭園は国の史跡及び名勝に、建造物は重要文化財に指定されている。
明々庵	松江藩松平家七代藩主松平治郷（不昧公）の好みによって有澤家の家老屋敷内に建てられた茶室で、現在は松江城を望む高台に移築されている。茅葺の入母屋に掛けられている額「明々庵」は、不昧公の直筆である。県指定有形文化財。
観月庵	普門院の境内にあり、七代藩主松平治郷と親交が厚かった住職観月庵恵海が開いたもの。小泉八雲もここでお茶のてほどきをうけた。

博物館・美術館・資料館等

出雲かんべの里	出雲地方に伝わる民話や神話、伝統工芸を楽しく体験できる施設。「民話館」では、マジックビジョンによる「耳なし芳一」の上映や、語り部による昔話の生の語りを行っており、「工芸館」では、籐工芸・木工・機織り・陶芸といった伝統の技を紹介している。工芸館は工房も兼ねており、直接話を聞きながら技術に触れられ、予約をすれば、製作体験もできる。敷地内には、ヤマザクラなど群生する「自然の森」、様々な水生植物が自生する「自然観察園」がある。
出雲玉作資料館	全国で数少ない玉作りに特化した本資料館には、常設展として「古代出雲の玉作り」を柱に「出雲のめのう細工」「布志名焼」など見ごたえのある数々の展示がある。その他、町内の考古・民俗・古文書などの研究・収集を進め、その成果を公刊し、郷土史教室を開催するなど、地域に密着した幅広い普及活動を行っている。
カラコロ工房	昭和13年に建てられた日本銀行松江支店の建物を改修し、銀行だった頃の姿を各所に残しつつ工房や体験教室などからなる複合施設として誕生した。平成28年2月には国の登録有形文化財に指定され、令和6年10月には大規模改修工事を経て、新しい魅力を備えた複合施設に生まれ変わった。山陰の食材を使ったグルメ、松江を中心とした地元のお土産物、松江ならではの文化体験が楽しめるスポット。
来待ストーン	来待石の歴史、文化、地質をわかりやすく紹介するミュージアム、来待石の彫刻体験など来待石を使った体験ができる来待石工房、来待釉薬（来待石を粉にした物）をはじめ様々な釉薬を使用した陶芸体験、絵付け体験ができる陶芸館がある。来待石のトンネルを抜けると目の前に広がるミュージアム前の石の広場は、第4回しまね景観賞で大賞を受賞し、宍道湖の夕日に勝るとも劣らない素晴らしい景色で訪れる人を魅了する。年2回地域の自然科学や民俗学の企画展を開催している。

小泉八雲記念館	松江で最も城下町らしいたたずまいを残す塩見縄手(しおみなわて)の西端にあり、小泉八雲旧居に隣接している。小泉八雲の資料を保存・公開し、その功績を後世に伝えるための資料館。著作「知られぬ日本の面影」など松江を世界に紹介した小泉八雲の自筆原稿や遺品、妻セツの英単語帳など、収蔵品は1千点以上におよぶ。八雲が愛用していたキセルや文机は、文豪八雲の執筆の様子を思い起こさせる。平成 28 年7月リニューアルを実施した。
小泉八雲旧居 (ヘルン旧居)	小泉八雲が明治 24(1891)年 6 月から 5 か月間、セツ夫人と暮らした武家屋敷。八雲は明治 23(1890)年中学校教師として赴任し、松江には 1 年 3 か月間在住した。八雲が著作「知られぬ日本の面影」第 16 章「日本の庭」で描写している光景が今も当時のまま残っている全国でも唯一の遺構であり、幕末期の中級武士の武家屋敷としても、建物や庭、周辺の景観が現在まで良く保存されている全国的に希有な国指定史跡。
島根県立美術館	宍道湖畔に建つ、水との調和をテーマにした美術館。モネやクールベなどの水をテーマにした国内外の絵画を収集展示しているほか、ロダンをはじめとする彫刻、島根ゆかりの作家の作品、日本の版画や国内外の写真などを展示している。館内のミュージアムショップでは、オリジナルグッズなどを販売。宍道湖の夕日鑑賞におすすめのスポットで、3～9月は、日没後 30 分まで開館時間を延長している。
田部美術館	雲南市(旧吉田村)の田部家に伝わるコレクションの中から、不昧公ゆかりの茶器や愛蔵品など茶道具を中心に展示している。不昧公の所蔵だった「秋埜(あきの)」の銘のある青井戸茶碗などの名品もあり、茶どころ松江らしい美術館である。
武家屋敷	塩見縄手には、かつて松江藩の中～上級藩士の屋敷が並んでいた。この武家屋敷も、約 275 年前の藩士が屋敷替えによって入れ替り住んだところである。刀だんすやお歯黒道具をはじめ当時の家具調度品、生活用具などを展示している。来客用玄関から座敷まわりは立派な造りになっているのに対し、私生活部分は質素にするなど、公私のけじめをつけていた武家の暮らしぶりが偲ばれる。平成 30 年 8 月からは明治期の図面をもとにした復元工事により、リニューアルしている。
興雲閣	明治36年竣工。和風の意匠を随所に取り入れた擬洋風建築。明治40年に皇太子嘉仁親王(後の大正天皇)行啓の御旅館として使用された。保存修理工事を経て平成 27 年 10 月にリニューアルオープンした。
松江歴史館	松江城の東に隣接する武家屋敷風の外観の博物館で、松江城天守とともに国宝になった祈祷札などを収める国宝収蔵館。江戸時代を中心とした松江の歴史を映像などで紹介する基本展示室、テーマを変えて展示を行う企画展示室のほか、松江城天守と日本庭園を借景とした大広間、和菓子を味わえる「喫茶きはる」、ミュージアムショップ「縁雫(えにしずく)」を備える。
松江ホーランエンヤ伝承館	平成24年10月にオープン。松江歴史館に隣接し、館内では、ホーランエンヤで使われる衣装や道具を展示するとともに、五大地(5地区保存会)ごとの特徴や違いを映像などで紹介している。シアターは過去の記録映像を放映し、祭りの臨場感を体験できる。中庭には、約1/2 の大きさの櫂伝馬船の模型があり、鮮やかな装飾を間近で体験できる。
メテオプラザ	美保関いん石を展示紹介する「メテオミュージアム」を中心に、リラックスルームなどを備えた多目的施設。隠岐への玄関口として隠岐航路のターミナルにもなっている。
八雲立つ風土記の丘・展示学習館	前方後方墳を型どった資料館では、埴輪・鏡・大刀など重要文化財や、周辺地域から出土した資料を展示している。近くには風土記植物園や復元古代住居があり、古代の風景を偲ばせている。

由志園	山陰一の規模を誇る池泉回遊式日本庭園では、春の牡丹、夏の菖蒲、秋の紅葉、冬の寒牡丹など四季の花々が美しく咲いている。また「牡丹の館」では、色鮮やかな大輪の牡丹を一年中見ることもできる。眺めの良い喫茶やお食事所もおすすめ。(全園バリアフリー対応)
安部榮四郎記念館	昭和 43 年、重要無形文化財「雁皮紙(がんぴし)製作技術保持者」いわゆる人間国宝に認定された(故)安部榮四郎の手すき和紙を中心に、生活の中で使われていた紙製品や明治から昭和にかけての 70 年余りにわたる紙の歴史などを展示している。手すき和紙の体験も行っている。

広場・通り等

青石畳通り	美保関は中世から「地乗り」といわれる沿岸航路の拠点として栄え、美保神社から佛谷寺までの青石畳通りは多くの人々でにぎわっていた。当時の面影を残す町並みと青石畳の道が、落ち着いた雰囲気を醸し出している。
京店カラコロ広場	京橋川沿いに広がるヨーロッパスタイルの広場。壁には松江を愛した小泉八雲のレリーフがあり、広場を囲んで様々な飲食店があり、食事をしてもよし、ちょっと一息いれてもよし、水辺で心地よい時間が過ごせる。広場の前には京橋川に沿ってレトロな街灯が並ぶテラス式遊歩道があり、堀川遊覧船「ぐるっと松江堀川めぐり」の乗船場がある。
塩見縄手	武家屋敷や小泉八雲旧居など、江戸時代の伝統的な様式の建築物が立ち並び、松江で最も城下町らしいたたずまいを残している通りで、松江市の伝統美観保存区域に指定されている。かつて二百石から六百石取りの中老格の藩士の屋敷が並んでいた。堀沿いに立ち並ぶ老松も堀川の流れとあいまって江戸時代さながらの風情を漂わせている。
はにわロード	八重垣(やえがき)神社と、神魂(かもす)神社を結ぶ 1.6km の遊歩道。周辺には史跡の案内板のほか、馬や鹿をかたどったはにわが飾られている。高床式建物をモチーフにした休憩所もあり、歩きながら周辺の歴史遺産に親しむことのできるルートである。
宍道湖夕日スポット	宍道湖夕日スポットは、宍道湖に沈む夕日が、嫁が島とともに見える絶景ポイントに、湖沿いを歩ける歩道や、腰掛けて夕日を楽しむことができるテラスなどが整備された場所。道路の向こう側に整備された 36 台の駐車場からは地下道が設備されており、より安全にスポットへ渡ることができる。

遊覧バス・観光バス等

観光ルートバス「ぐるっと松江レイクライン」	松江城や武家屋敷、小泉八雲記念館、島根県立美術館など、市街地と近郊の主要観光スポットを結ぶ、松江めぐりにぴったりの周遊バス。宍道湖の夕日をイメージした赤い車体と茶の湯文化を象徴する緑の車体が旅情豊かな市内の観光ルートを約 50 分(嫁ヶ島ルートは約 60 分)でめぐる。
堀川遊覧船「ぐるっと松江堀川めぐり」	松江城を取り囲む堀川は、松江城築城のときにつくられた。船は堀川を約 50 分かけてゆっくりと遊覧する。船上から眺める松江の街並みはどこか懐かしく、水辺を彩る草花や水鳥が四季を感じさせてくれる。航路を一周すると、17 もの橋をくぐり抜け、そのうち 4 の橋をくぐるときは橋の高さにあわせて屋根が下げられ、乗り合わせた人たちとの語らいを一層楽しいものにさせてくれる。令和 9 年 7 月をもって運航開始から 30 周年を迎える。
宍道湖観光遊覧船はくちょう号	宍道湖のクルージングが楽しめる遊覧船。約1時間の乗船で、宍道湖の風に吹かれながら、松江市周辺の景色が楽しめる。特に日没時間に合わせて運航する最終便、サンセットクルージングは格別で、宍道湖に夕日が沈む様子を湖面から楽しむことができる。

(2) 主な観光行事とまつり　※開催時期は年によって異なることがあります。

月	名　称	場　所
1月	古式祷(とう)渡し式	神魂神社
	左義長しゃぎり	本庄町
	片江とんどさん(墨付け祭り)	美保関町片江
	左吉兆とんど	魚瀬町
	星上寺の大餅っつあん	星上寺
2月	秋鹿の大餅っつあん	大日堂
	節分祭	熊野大社
3月	お城まつり(～4 月上旬)	城山公園
	白潟天満宮祭	白潟天満宮
	玉造温泉桜まつり	玉湯町
4月	島根町さくら祭り	島根町
	松江武者行列	松江市内
	青柴垣神事	美保神社
	流鏑馬神事	美保関町千酌・爾佐神社
	御櫛祭(御田植神事)	熊野大社
	茶せん供養	月照寺
	森の誕生日	宍道ふるさと森林公園
	大根島ぼたん祭	八束町各所
5月	直会祭	佐太神社
	身隠神事	八重垣神社
	松江神社例祭(春)	松江神社
	華蔵寺例祭	枕木山・華蔵寺
7月	海のまちサマーフェスティバル	島根町
	全日本海上綱引き選手権大会	美保関町
	玉造温泉夏まつり	玉造温泉
	白潟天満宮夏祭(天神祭)	白潟天満宮
	れんげ祭	宍道町
	川から海へ大航海in鹿島	鹿島町

月	名　称	場　所
8月	松江水郷祭	宍道湖・末次公園周
	盆花市	天神町
	やくも夏まつり	八雲町
	万灯会	月照寺
	御津みなと祭	鹿島町御津
	とうろう流し	松江大橋付近
	武内神社大祭	武内神社
	菅原天満宮夏季例祭	菅原天満宮
9月	トーレトーレ御神事	平濱八幡宮
	城山稲荷神社例祭	城山稲荷神社
	御座替神事	佐太神社
	松江水燈路(～10 月中旬)	塩見縄手周辺
10月	松江城大茶会	松江城周辺
	関乃五本松節全国優勝大会	メテオプラザ
	六所神社例祭	六所神社
	鑽火祭(亀太夫神事)	熊野大社
	松江祭鼕行列(どうぎょうれつ)	松江市内
	ガッチ祭	島根町
	神魂神社大祭	神魂神社
	八重垣神社例祭	八重垣神社
	護国神社例大祭	松江護国神社
	島根町ふれあいフェスティバル	島根町
11月	菊花展	松江城
	松江神社例祭(秋)	松江神社
	筆供養	圓成寺
	堀尾公法要	圓成寺
	神在祭	神魂神社
	お忌みまつり(神在祭)	佐太神社
12月	諸手船神事	美保神社
	御釜神事	神魂神社

(3) 主な特産品

宍道湖七珍	宍道湖でとれる魚介類のうち、白魚・あまさぎ(わかさぎ)・すずき・鯉・もろげえび・しじみ・うなぎの七品をいう。
和菓子	金沢の「長生殿」、長岡の「越乃雪」とともに天下の三大銘菓と称される「山川」を筆頭に、「若草」、「菜種の里」と茶人、松平不昧公好みの銘菓が現在まで伝えられている。その他にも茶の湯がさかんな当地では和菓子の種類が多い。
ぼてぼて茶	熱いお茶の中にしいたけ、高野豆腐、煮豆などの具を入れたもの。よく泡立つように茶の花を入れて煮出した番茶を、熱いうちに長めの独特な茶筅でたてると、泡立ってくる。この時「ぼてぼて」と音がするのが名前の由来という。松平不昧公の時代には飢饉の時の非常食だったといわれている。

あごのやき	日本海で5月から9月にかけてとれる飛魚(あご)のすり身を炭火で焼き上げたもので、暖かい季節に火のそばでする作業なので、屋外で行うことが多く、それが「野焼き」の名の由来という。
津田かぶ漬	津田かぶは、松江藩松平家初代藩主松平直政の時代に近江国(滋賀県)から伝来し、城下の野菜の需要の大半をまかなっていた津田村で栽培が始められたといわれる。このかぶを生干してからぬか漬けしたもので、出回る時期は、11月から3月頃まで。
八雲塗	代々松江藩お抱え駕籠塗職人の家に生まれた坂田平一が、明治になり職を失ったため、考案した伝統工芸品。その塗手法は、布着せ本堅地で、錆研ぎの上へ中塗りせずに削り墨を引き、すぐに絵付けをする。それにすず粉で模様を描き、中へ朱・黄・茶・緑などの固練りで塗り、さらに乾燥した黒目漆を薄く塗り軽く炭研ぎをし、それに油分のない朱分漆を塗って、胴擦り仕上げをするというものであった。これが時の島根県知事籠手田安定の目にとまり、知事や友人の勧めで「八雲塗」の名をつけて販売されるようになった。
楽山焼	楽山焼は三代目綱近が、長州毛利氏に依頼して、延宝5年(1677年)倉崎権兵衛重由を招いたことに始まる。権兵衛重由は朝鮮からの帰化人、季敬(初代高麗左衛門)の高弟で、伊羅保写・高麗写などを得意とした。天明6年(1786年)いったん中絶したが、七代藩主松平治郷(不昧)は、玉湯町の布志名窯にいた長岡住右衛門貞政を起用し再興した。茶陶、ことに伊羅保系は茶人の間で愛好されている。
袖師焼	玉湯町出身の尾野友市が、布志名・楽山・宝永山で修行したのち、明治10年(1877年)に良質の陶土がある市内上乃木町皇子坂に開窯したのが始まりである。2代目岩次郎が、明治26年(1893年)に宍道湖岸の袖師浦の現在の地に窯場を移し、京都、瀬戸、有田その他の窯業地を訪ねて研究のすえ、従来の布志名焼と趣を異にした雅味あふれる陶器を創作し、松江焼または磯出焼と命名したが大正15年(1926年)松江出身の小原流華道の家元小原光雲のすすめで袖師焼と改めた。釉薬には地釉が多く使われるのが特徴で、茶器、食器、花器、酒器など主に作っている。
めのう細工	出雲地方は古来よりめのうの産地で、朝廷に献納した歴史もある。玉湯にある花仙山から産出する青めのうは古代から勾玉などに加工されており、現在も装飾品として珍重されている。
来待石・石灯籠	特産の来待石は、コケが生えやすく庭の中に溶け込みやすいことが魅力となって、石灯籠だけでなく庭園の「石の美術品」の材料としても人気が高く、その軟らかな石質も、細やかな彫刻を施すのに適している。

(4)観光地別観光客入り込み延べ数

【旧松江地域】 (単位:人)

観光地・観光施設名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
(1) 宍道湖遊覧船	8,258	9,706	12,982	12,459	12,070
(2) 松江城	172,076	275,198	373,237	402,049	421,404
(3) 小泉八雲記念館	29,059	45,967	64,340	86,268	142,530
(4) 武家屋敷	26,256	41,853	59,322	68,680	66,150
(5) 八雲立つ風土記の丘	10,526	15,112	14,361	14,948	14,376
(6) 出雲かんべの里	46,651	56,704	52,544	104,161	108,042
(7) 松江しんじ湖温泉	181,165	240,798	297,761	305,830	300,612
(8) 松江歴史館	70,166	82,592	99,624	138,983	205,045
(9) ぐるっと松江レイクライン	70,638	94,428	100,491	97,321	136,811
(10) ぐるっと松江堀川めぐり	96,967	153,295	200,920	190,207	197,185
(11) 松江・堀川地ビール館	26,893	43,090	64,694	69,464	72,562
(12) 秋鹿なぎさ公園	8,093	8,579	8,332	9,458	10,741
(13) 島根県立美術館	38,936	261,299	290,738	240,645	309,722
(14) カラコロ工房※R5.41～R6.10.1 休館	172,885	200,547	53,077	112,320	326,037

(15) 松江フォーゲルパーク	136,953	166,994	200,094	193,122	185,497
(16) 松江ホーランエンヤ伝承館	4,056	5,734	6,005	7,012	6,935
(17) 興雲閣	112,220	168,211	226,626	239,948	239,635

【鹿島地域】 (単位:人)

観光地・観光施設名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
(18) 佐太神社	93,200	154,100	192,500	216,850	249,800
(19) 島根原子力館	29,517	30,125	38,145	43,978	45,867
(20) 恵曇海岸(釣り)	25,900	28,300	28,800	31,000	32,800
(21) 古浦海水浴場	1,630	7,400	20,000	27,200	28,800
(22) 鹿島多久の湯	127,611	116,093	138,781	133,606	142,677

【島根地域】 (単位:人)

観光地・観光施設名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
(23) 加賀の潜戸	7,690	130	2,290	2,100	1,930
(24) 潜戸遊覧船	4,034	2,992	4,298	5,419	4,053
(25) 小波海水浴場	170	0	12,000	7,300	7,600
(26) 桂島海水浴場	150	7,300	7,000	5,300	5,500
(27) その他海水浴場(大芦、野波、多古、沖泊、瀬崎)	3,300	15,500	15,700	17,000	17,300
(28) 小波キャンプ場	0	0	943	812	799
(29) 桂島キャンプ場	0	1,000	1,500	1,060	880
(30) 島根町全域(釣り)	63,940	63,420	62,270	58,940	56,160
(31) マリンゲートしまね	2,581	4,404	4,444	1,732	1,545

【美保関地域】 (単位:人)

観光地・観光施設名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
(32) 美保神社	515,900	612,200	720,900	784,400	849,400
(33) 美保関灯台	359,170	363,894	352,130	397,763	278,572
(34) 北浦海水浴場	28,266	29,038	20,978	24,240	25,108
(35) メテオプラザ	17,023	22,025	23,175	17,207	15,445
(36) 美保関町全域(釣り)	90,620	88,830	89,540	90,460	91,400

【八雲地域】 (単位:人)

観光地・観光施設名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
(37) 熊野大社	138,000	242,000	270,000	274,000	288,000
(38) 安部榮四郎記念館	1,847	1,616	2,245	2,829	2,510
(39) ゆうあい熊野館	124,761	112,866	129,429	119,104	116,540
(40) ホットランドやくも	36,781	33,990	32,946	29,487	28,239

【玉湯地域】 (単位:人)

観光地・観光施設名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
(41) 玉造温泉	337,747	413,668	494,495	504,502	498,524

(42) 玉造温泉ゆ～ゆ	123,421	125,231	164,358	174,280	180,436
(43) 出雲玉作資料館	3,664	4,385	7,410	8,408	6,919
(44) 玉作湯神社	46,428	72,459	77,061	71,707	69,811

【宍道地域】 （単位:人）

観光地・観光施設名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
(45) ふるさと森林公園	39,117	48,775	48,161	45,254	42,397
(46) 玉造温泉カントリークラブ	32,720	35,236	35,038	35,615	34,452
(47) 来待ストーン	16,790	14,177	17,584	16,446	22,231

【八束地域】 （単位:人）

観光地・観光施設名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
(48) 由志園	147,321	191,793	253,587	223,185	234,690
(49) 熔岩隧道	496	441	741	987	964
(50) 中村元記念館	4,811	4,629	5,302	6,026	6,481

【東出雲地域】 （単位:人）

観光地・観光施設名	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
(51) 黄泉比良坂	590	1,000	7,110	15,750	10,900

資料:島根県観光振興課「島根県観光動態調査結果表」

(5)松江市の友好都市

国　名	都　市　名	友好都市締結年月日
アメリカ	ルイジアナ州 ニューオーリンズ市	1994年3月26日
中　国	吉林省 吉林市	1999年11月9日
韓　国	慶尚南道 晋州市	1999年11月10日
中　国	浙江省 杭州市	2003年10月17日
中　国	寧夏回族自治区 銀川市	2004年9月24日